

平成26年度 市長と語ろう「わかものふれあいトーク」

●日時 平成26年12月11日（木）18時～19時30分

●会場 市役所2階 市長応接室

●参加者 地域交流・活性化サークルAXIS、くしろ女子会 計8名

釧路市長の蝦名大也でございます。本日、これからの時代を創る若い世代の皆さんと一緒に「わかものふれあいトーク」を開催できることは大変嬉しく思います。

昔読んだ本の中に、古代エジプトの石碑の中には「今時の若いやつら」という表現があると書いておりました。今や私自身は、このフレーズを言う側の世代になってしまいましたけれども、これは4千年以上前から同じように使われているということかと思います。年上の世代の方々には言われつつ、次の世代が新しいモノを作りながら、常に世代間で繋がってきたものだと思います。

私は、1959年生まれなので、今年で55歳になります。きっと、皆さんのお父さんやお母さんと同じくらいの年代かもしれません。我々の年代は、高度成長期やバブルの崩壊を実際に体験してきましたけれども、現在の厳しい環境の中で育ってきた世代の皆さんは、また違った考え方をしていると思います。

今日は、縁があって、こうして皆さん集まっていただきました。皆さんが、釧路で生活している中で普段感じることは、大変勉強になると思っておりますので、私も非常に楽しみにしているところです。どうぞよろしく申し上げます。

なお、机が隠れるくらい、色々な物が置いてありますが、今日ご用意した地元の「根釧牛乳」はハーゲンダッツの原料になっておりますし、オロナミンCは音別の工場で作っております。その他、「くしろ阿寒百年水」、「ミスターししゃも」などの釧路の物産品もご用意いたしました。

今日は、ぜひ楽しんでいただければと思います。

(自己紹介)

【参加者 A】

私は帯広市出身の20歳の大学生で、釧路に来て2年目になります。現在、末広でお酒の配達のアルバイトをしています。釧路における関心事は、人口減少についてです。

【参加者 B】

私は、岩手県遠野市の出身で大学2年生です。釧路の観光や交通の分野に関心があり、現在のサークル活動としても、この分野の活動をしたいと考えています。

【参加者 C】

私も岩手県出身で、現在大学1年生です。最近の関心事は、地元の岩手県も釧路と同じ沿岸地域で同様の課題を抱えている災害対策についてです。

【参加者 D】

私は、東京都板橋区の出身で、大学1年生です。市民団体としての活動はこれからになりますが、現在、くしろ寺子屋でボランティアをしている他、消防団で活動しております。

また、ボランティアや消防団の関係で、釧路市の防災に関する施策やコンパクトシティ構想などに興味があります。

【参加者 E】

私は、兵庫県神戸市出身の大学生です。現在、活動している市民団体では、これまで雇用などについて話し合っていました。普段は、模型同好会という団体を作って活動をしていたり、くしろ寺子屋でボランティア活動をしています。

【参加者 F】

私は、生まれも育ちも釧路です。最近では、色々なセミナーに出たり、まちづくりを考えるイベントなどに参加したりしています。市民団体としては、セミナーなどを通じて知り合った人達と、情報交換しながら、何か新しいイベントを生み出せたりしないか模索しながら活動しています。

【参加者 G】

最近の関心事は、地球全体の交通問題に関心があって、自分に何ができないかを考えています。また、現在、道東管隊で活動しており、音楽を通して街を盛り上げていけたらと思います。

(質疑応答)

【参加者A】

現在、末広でお酒を運ぶアルバイトをしております。お酒の配達をしていても、駅前や末広に人が歩いていないことが多く、地元である帯広市との違いに困惑することがあります。

また、新聞報道等で釧路市の人口は減っていて、何年後かには苫小牧や帯広に人口数を抜かれるといった記事を読みました。超高齢化社会かつ出生率低下といった中で、人口減少をどのようにして抑えることができるのか伺いたいと思います。

【市長】

人口減少をどのようにして捉えるかということが重要であると思います。2040年時点で20～39歳の女性人口が半減する自治体を消滅可能性都市とするレポートがありましたけれども、その中に釧路市も入っていたところです。まさに、人口減少に対して、どのように向き合いながら様々な取り組みを進めていくかというのが極めて大きな課題であると思います。

そもそも日本の人口減少は、いつから始まったのか、もっと長いスパンで考えてみると、その指標に合計特殊出生率という15～49歳までの女性が一生の間に産む子どもの数を示すものがあります。現在の人口を維持するためには、「2.07」という数字が基準になりますけれども、簡単に申し上げますと2人産むと、現在の人口は減らないということになります。

日本において、その合計特殊出生率が「2.07」を割ったのは1970年代の半ばです。つまり、その頃より出生数だけでは人口を維持することが難しくなっていたということが言えます。その反面、医療の進歩等により高齢化が進み、人口が確保されてきたという事実があります。

国内人口は、2004年にピークを迎え、その後、減少局面になっているという事実があります。人口減少社会あるいは、子どもが少ない社会というのは、成熟した社会であるとも言えます。2013年（平成25年）の日本の合計特殊出生率は1.43で、一番低かった2005年（平成17年）は1.26でした。

昔、市では、人口が右肩上がりに伸びている頃、当時の人口が約22万人でしたけれども、今後の市内人口を約25万人と見込み、まちづくりを考えておりました。その当時、人口はいつまでも人が増え続けるという前提だったわけですがけれども、実質的に1970年代から人口減少は始まっていたため、現実的に人が減ってきたら色々な所に支障が出てくる。そのため、今後の人口推移のシミュレーションが重要になると思っております。

また、シミュレーションには、様々な社会情勢や景気動向等の係数が入っていませんけれども、これも考慮する必要があると考えています。例えば、釧路では太平洋炭鉱が平成14年に閉山するまで、従業員として約1500人いたのが、今や約500人弱となっております。

そのため、これから地方は人口減少にどのように対応するべきか、しっかり考えて進めていくことが今の大きな課題です。雇用や教育など様々な問題があると同時に、多様なニーズがあります。その中で地域にあるものをどのように活用しながら、取り組みを行っていくのが重要になると思っております。

【参加者B】

釧路は、道外出身者からすると、夏は涼しく、冬は降雪が少ないため過ごしやすいと思います。一方で、私の地元である東北と比較すると、東北の方が地域住民の繋がりが強いと感じることがあります。例えば、それが町内会等のコミュニティを通じた様々な活動や、ご近所同士の繋がりと等です。もっと、地域で住民同士の繋がりが持てるようなコミュニティづくりのための催しがあると良いのにと 생각합니다。

【市長】

以前、釧路公立大学で山形県出身の方から伺ったことです。その方は、山形のご両親から釧路に来たら町内会に入りなさいと言われ町内会に入ったそうです。私自身、親に言われたことがなければ、自分の子供にも言ったことがありませんでしたので非常に驚きました。山形には進学等で県外へ行った際には、町内会に加入することは当たり前という地域文化や歴史があると感じました。

私自身が一般的に聞く話として、町内会に入っても何のメリットない、町内会の役員をやっても大変だということです。山形県の話は大変驚き、勉強になりました。

【参加者B】

私の地元の場合、町内会の運動会やお祭り等、様々なイベントがあります。イベントを通じて子ども達の教育を地域の皆で一緒にやり、また、他人との繋がりができることで、結婚したといった話もあります。地元に残っている文化の伝承ともなるので、大変良いと思います。

【参加者C】

地域住民がお互い歩み寄り、地域コミュニティの結びつきが強くなることは、災害等が起きた場合、協力し合って助かる人も増えると思います。例えば、岩手県の釜石市では、津波が起きた際、中学生が小学生を連れて一緒に逃げて助かった事例があります。その地域では99.9%の生存率でした。釧路でも小学校から中学にかけての連携した防災教育とかした方が良いのではないかと思います。

【市長】

釧路市内では避難訓練等々やっておりますけれども、小学校と中学校が連携して実施したというものは聞いたことありません。災害等が発生するタイミングとして、校外にいる場合も想定として必要であると思います。

先ほど、地域コミュニティの結びつきが強くなることが重要とありましたが、私自身も本当に同じく思います。

地域コミュニティの強さを物語っている例として、東日本大震災の際、釧路でも行政側で避難を手伝った要援護者は28名で、避難完了までに約2時間を要しました。この間、市職員が要援護者へ電話等で安否確認を行い、対応を行いました。

一方で、モデルケースとして町内会単位で要援護者を住民の手で避難させる取り組みを行っていた地域では、津波の第一波が到着する地震発生から48分後までには避難が完了していたと報告を受けました。これこそ、「共助」の仕組みが、効果として発揮された結果であり、特に災害時に

は公的な助けで物事を進めていくには限界があるということも思い知らされるものでした。

【参加者D】

釧路市市役所の近くに防災拠点施設を建設していると伺いました。釧路では、過去に釧路沖地震があり、また阿寒においては火山の噴火などのリスクがあると思います。市としては、これからの対策として、どのようなことを進めていくのでしょうか。

【市長】

東日本大震災の際、市役所の目前まで津波が来ておりました。市役所には電気・配電系統やボイラー等が地下にあり、もう少しで海水が建物へ入って来るという状況でした。

現在、建設しております防災拠点施設は、行政が保管している住民票等の様々なデータを建物上部に置いて、大切なデータをしっかり守っていこうということが背景にあります。

また、今、国が東海地震や東南海・南海地震、首都直下地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの地震について、人的被害や物的被害等の被害想定をシミュレーションしており、その結果が発表されるのを待っている状況ですけれども、来年、改めて津波の高さや到達時間等の詳細を発表されるのではないかと見込んでおります。その発表される内容によっては、市としての対応が変わってくると予想されます。

【参加者E】

学生同士で話をしていたことですが、釧路公立大学の学生達は大学卒業後の就職の先として、釧路ではなく札幌や道外に出ていってしまうという話をしていました。また、学生でも住民票を移していない方も多いという話も出ました。その中で、釧路は悪い所ではないけども、釧路には仕事がないし、釧路に残る理由が見つからないという話がありました。

私は、釧路は良い所だなと思っており、魅力をより知ることができればいいなと思っています。

【市長】

本当に働く場所は大事だと思います。釧路公立大学の卒業生のうち、約1割が釧路に残って仕事をしていると聞いております。市では、一人でも多く地元で働く場所を作っていきたいと考えております。

【参加者D】

私は出身が関東で、進学先として釧路におり、卒業後の就職先も釧路で考えております。当初、卒業後は東京へ戻る予定でしたが、釧路へ来て夕日が綺麗であるを知ったり、寺子屋等のボランティアで色々係わるようになってから、東京にはない釧路の魅力に気づいて釧路に残りたいと思うようになりました。やっぱり人とか景色や食など単純ですが、そういう理由で私は釧路に残りたいと思うようになりました。

【参加者E】

私は、都会と比べると街灯も少なかったりするので、最初は戸惑うことも多かったのですが、

食べ物が美味しかったり、星が綺麗であったり、身近に魅力が沢山あると思います。

【参加者 F】

これまで、色々なまちづくりについての集まりに参加してきました。そこでは様々な市民活動をやっている方々が多く参加していて、楽しいイベント情報等が多く集まり、どんどん人と人の繋がりが増えていきます。家族で同じ家に住んでいても、年代によって地域の情報を仕入れる方法が全く異なります。

また、釧路市の同じ日に複数のイベントがやっていることがあるので、別の日程で出来ないのかなと感じることもあります。

【市 長】

私も同じように感じる場合があります。以前、物産系のイベントが同じ日にやっていたことがあり、なぜ同じ日にやるのかと思ったことがありました。様々な情報を集約して、活用できていないと思います。

【参加者 F】

SNSを活用して情報発信しているところでも、自分のイベントだけ発信しており、他のイベントとの互換性がないと感じることがあります。

【市 長】

特に、クルーズ旅客船の入港時は、イベント情報を集約して、提供することはどうだろうかという話になったことがあります。今年、全24隻のクルーズ旅客船が、西港第4埠頭と耐震・旅客船ターミナルに入りました。乗客向けに様々なツアーが生まれ、多くのお客様が阿寒へ行ったり、厚岸へ牡蠣を食べに行ったりなど、釧路の短い滞在を満喫していただいたようです。また、乗客でも一部の人達は船内に残り、北大通りなど市内を散策しておりました。

ある時、天候不良でツアーが全て中止になってしまい、多くの外国人がまちの中に溢れていました。釧路市内のコンビニで外国人がレジに列をなしており、普段は見られない光景でした。その際、様々な情報を提供しましたが、やはり情報が少なかったと思います。

私としては、多くの人達が発信する情報を集約して、これを活用できる仕組みがないものだろうか感じております。例えば、クルーズ船が入港した際に「うちの商店街ではクルーズ乗船客でパスポートを提示いただいた方は5%、10%OFFですよ」もしくは、「うちの商店街では入港している12時から14時の間に、こういったイベントを行っています」という情報が載っていたら良いと思います。

【参加者 F】

私は、情報が集まる場所としてインターネットだけでなく、図書館のような公共施設や、北大通りの空き店舗等を作り、ある種のチャレンジショップがあると地域の活性化に繋がると考えています。

【市 長】

公共施設などのパブリックな環境の中では、これまで実施したことは無いと思います。公共施設の利用となれば、施設管理の問題など懸念される部分が多いと、中々前に進まないこともありますけれども、一定程度の制約がある中で利用方法を議論しながら進めることはありかもしれないと思います。

【参加者G】

私は、市で実施している「地域学習講座」や、釧路町で「協働のまちづくり講座」に参加しています。今は、釧路町の交流プロムナードの整備について関心があります。これは「地域住民が色々なイベントを開催し、集い交流するスペース」として整備する予定であると聞きました。私は、自然と触れ合いながら色々な人が集まり、チャレンジショップなど自由闊達にできる空間になると予想しています。釧路市も同じように皆でそういった場づくりが必要なのではないかと感じています。

【市 長】

簡単に申し上げますと、釧路町に釧路市が管理する貯木場があります。あそこは津波が来ると危険になるため、埋め立てて土地にしようというものです。現在、釧路町が道路を作るために、釧路市でも様々な協力をしているので、あそこは良い形になると思っています。

また、自然と触れ合いながらの場づくりという点では、市では公園として未供用地を野菜作りなどに利用していただく仕組みや、山花で市民ふれあい農園で野菜作りを自由にやっていただく制度があります。こういった機会も利用していただきたいと思います。

【参加者G】

高齢者の孤立とコミュニティスペースについて関心があります。私自身の父親も退職後、家にいることが多く、中々、地域へ出て行かない状況です。女性は町内会等を通じて外へ出る機会が多くあると思いますけれども、男性は仕事ばかりやって退職後は特段やることがない人って多いと思います。皆が、気軽に集まりやすいコミュニティスペースがあるといいなと思います。

【市 長】

コミュニティが活性化するためには、やはり交流がないと駄目であると思います。もともと、町内会にはそういった要素があるとも思います。

【参加者G】

私は、町内会には入っていますが、我が家では父よりも母の方が積極的にやっています。ある時、町内会で家系図等を書く集まりがあったとき、父が報告書みたいな資料を楽しそうに作っていたと母から聞きました。男性でも参加しやすい取り組み情報もあると良いと思います。

【市 長】

先程も申し上げましたが、様々な情報って欲しいときに届かないことがあると思います。例え

ば、広報くしろで掲載している内容についても、発行当月や次の月の情報しか載っていないと思います。大事なご意見ありがとうございます。

(事務局(市民協働推進課))

本日は、人口減少、防災及び災害対応、コミュニティスペース、高齢者問題等、多岐に渡りお話いただきました。最後に、釧路にこうなって欲しいといった点がありましたら、皆さんからお願いします。

【参加者の皆さんの声】

- ・世代間の交流が活発化する釧路であってほしいと思います。
- ・市の財政的な問題もあると思いますが、もっと住みやすいまちになって欲しいと思います。例えば、街灯がもっと欲しい、公共交通網がもっと発達して欲しい等です。
- ・災害に強いまちになって欲しいと思います。例えば、東日本大震災の時には、釧路市は死者0名だったと伺っています。地域住民が、お互い助け合い、しっかり根付いて安心して暮らせるまちになって欲しいと思います。
- ・北大通りがもっと活性化して欲しいと思います。少し気軽に入ることができるお店があれば、もっと便利で住みやすくなると思います。
- ・繁華街における人の少なさや、寂しさを感じるがあるので、末広も含めて北大通りがもっと活性化して欲しいと思います。
- ・皆が住みやすいまちにして欲しいと思います。例えば、子育ての支援を厚くして欲しい。釧路の強みを全国へアピールすることが出来れば、皆さん釧路住みたいと思うと思います。
- ・釧路らしさをしっかり残しつつ、もっと発展して欲しいと思います。
- ・釧路は、夕日や釧路湿原が綺麗でとても良いところだと思います。自然と共にあり続けるまちになって欲しいなと思います。

【市長】

今日は、若者たちのまちの活性化や、安心して安全な住みよいまちへの思いや意識を聞くことができて本当に良かったと思います。ありがとうございます。

皆さんは、これまで色々なまちを見たり、それぞれの地域の違いを感じて、この釧路に住み、暮らしていただいていると思います。皆さんが、普段の生活の中でしっかり見てきたものと思うのでしょうか、極めて的確で貴重なご意見が多かったと思います。これから地方都市として、どのようにまちづくりを進めていくのか重要になってくると思います。

先ほど、子育てや安全で安心な暮らしやすいまちという話があったと思いますがけれども、以前読んだ本の中で「なぜ日本人は戦争を選んだのか」といった内容のものがありませんでした。その本には、日本のシステムとして、もっと子育てや子どもに焦点を当てるべきであるというのでした。これは、日本の政治や選挙のシステムがそうだと思いますけれども、是非投票に行つて欲しいと思う一方で、投票率を見ると年配の世代の方が多く投票していたりする。その本では、本来、若年層にもっとフォーカスを当てて、鼻息してもいいから、大人はもっと考えながら進めていくこ

とが世代のバランスを問えるのではないかといった内容でした。

日本全体の予算の中で、65歳以上の方に使っているお金は、公費や民間資金を含めると、約60兆円を超えております。少し古い数字になりますが、小学校に入る前に使っているお金は、約2.5兆円という数字もあります。非常にバランスが悪いと思います。

また、北大通りの活性化について、私が北海道議会議員だった頃、釧路に帰ってきた私の子どもに「まちでも行くか?」と言ったら、「まちってどこさ?」と言われました。私が「まちって北大通りだよ。」と言うと、「北大通りなら、北大通りって言わないと分からない。」と言われ、非常にショックを受けたことを記憶しています。私が若い頃には、「まち」と言えば「北大通り」を指しましたが、残念ながら今の北大通りには昔のような賑わいがありません。

しかし、北大通りが釧路の中心市街地でなければ、まちの賑わいがなくても、まちの賑わいとはあの程度のものなんだという感覚になってしまい、地域の文化として「まち」が失われ、誰もが危機感を抱かなくなってしまう。

逆に、今回のように皆さんから色々な話をいただいたことは、今後のまちづくりを進める上で、ひとつのベースになると感じております。人が集まり、賑わいがあるところには、ビジネスがあり、市民活動があり、そして、どんどんまちの活性化に繋がると思います。若い人が、自分達のまちをしっかりと見ているということに、大変感謝しているところであります。皆さんのご意見を一つでも前に進めていきたいと思っています。本日は、ありがとうございました。